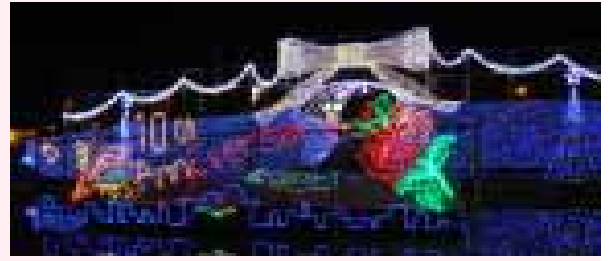


## イルミネーション2012



9月26日第1回イルミネーションプロジェクト会議が開催されました。「今年は何を造りましょうか?」「テーマは何ですか?」「ala開館10周年」ということで決まりました。10th Anniversary 来館者にバラの花束をプレゼント・来場者にクラッカーでお迎え、そんなイメージで造り始めました。前回の復興祈願も難しかったんですが、今回のバラはとても難しかったです。「これでいいの?」「バラに見えないよ」10月中旬頃からは、参加できるスタッフは連日制作室で試行錯誤しながら作りました。「ここ点灯しないよ」「切れてるんじゃない?」「この電線はどこに繋ぐの?」「材料が足りない」など今までに無い様々なトラブルの中

やっとの思いで完成!試験点灯では1発OK「良かった…」と小さな声でつぶやくスタッフ「OK OK」と胸をなでおろす人。今回のイルミネーションは町並みの上に“クラッカー・alaクルーズ・10th Anniversary・バラの花”が造られていました。来場された親子連れの人・散歩中の人など足を止めて「綺麗」と見入っておられました。イルミネーションは11月24日から2月6日まで冬の夜空を飾っていました。



押さえてて

この線で良いかな

ここ留めるんだよね



水面に映った全景



点灯式に参加された方々

## フロントスタッフフォローアップ研修会



11月9日(金)19時~21時、10日(土)9時~15時。星乃もと子氏をお迎えして、『フロントスタッフの基本を再確認する』ということで、研修会が行われました。クルーズの新人の方や、財団の局長はじめ新人職員も出席されました。初日はデジタルアート工房での座学で



した。“フロントスタッフは何の為に必要か?・誰のために必要か?”という話や、具体的な業務などを再確認しました。2日目、午前中は主劇場を使って扉の開閉、遅れ客対応の仕方を確認しました。昼食は創造スタッフルームでカテリーナのランチをいただき交流会となりました。午後は表情、態度、言葉づかい、挨拶、身だしなみで自分の印象をコントロールするという話でほま紅や口紅でも表情を豊かにできるということでした。2日間の研修会を終えて、臨機応変な対応を心がけお客様に満足していただくフロントスタッフのあり方を再確認し、今後の活動に活かしたいと思います。来年も研修会で会えることを約束して研修を終わりました。

## alaクルーズ講習会

### ボランティアとしてどのように行動すればいいのか?



12月9日(日)『第4回ボランティア講習会(alaクルーズ会員対象)』が行われました。講師は永井美佳氏。ala創造スタッフ室にて10時半~16時まで16人の参加者が学びました。始めに衛館長が「セミナーを受けてalaクルーズに参加する自分って何だろうと見つめ直す機会になるとよい」などと言われました。続いて澤野理事長から「永井さんは今回で4回目の講演となりステップごとにクルーズの内情に即してやってきてくださった」と挨拶されました。講演は「ボランティアは作業化してはいけない」という話からはじまり、「気付く」「感動を共にする」スタッフも活動を通して「また来たいなあ」という気持ちになることが大切。自分にとってもハッピー、誰かにとってもハッピーであることや自発性の大切さなど今の会員にとって大事なことを次々と言葉にされ、場が和みました。ワークショップではまず、4つのグループに分かれました。

①【タイムライン】(回想)：過去から現在までの自分自身の気持ちの推移をラインで可視化しました。そして、ラインに変化があった箇所に出来事や思いを記入。それを隣り同士でシェアしました。いろいろな線があり、笑いもあり、楽しかったワーク。

②【ジョイントスピーチ】(発掘)：<ボランティア>と<自分>の関係を考える。<クルーズ>という言葉の後ろに言葉をつけてグループで語り合う手法。“に・から・へ”や“より”等、言葉を変えると次にくる内容が変わり大変、楽しい。例えば、「クルーズの仕事から元気をもらいます」など、盛り上がりました。

③【ワールド・カフェ】(共有)：机の上に大きな用紙。中央にテーマを書きます。「ボランティア活動を通して、どのような変化がありましたか」ホストを決め、その人を中心に語り合います。次にホスト以外の人々が他のグループに旅立ってディスカッションします。ホストは旅人を新たに迎え、また語り合います。紙には種々の思いが表現され、シェアできます。ワークの間中、永井氏の優しい語りがあり、リラックスモードに。「年を忘れる」「元気がもらえる」など活気も。ワーク後、全員に紙が配布され、今の気持ちを漢字一文字で表現することに。【和】【道】など書いた紙を見せながら発表。創造的な時間でした。

④【振り返り】ワーク：「私への手紙」最も気になっている人を一人選び、その人から感謝の手紙が届いたと想定して自分で書く。真剣な眼差しで、ペンの音がよく聞こえました。最後に一人ずつ、本日の感想を述べました。「いろいろな気づきが得られた」「楽しかった」「今の私達に合った内容だった」など。時間はあっという間にすぎ、余韻が残りました。【振り返り】のテーマは各人の心に残り、今後の私達をよりよく導いてくれることでしょう。



## 24年度事業

# 長久手文化の家視察研修



平成25年2月3日(日)8時にalaを出発したバスは、参加者24人を乗せてまずは昨年世界最大のプラネタリウムドームとして新装オープンした名古屋市科学館に立ち寄った。マスコットキャラクター・アサラが出迎えてくれたドームはゆとりのリクライニングシートで冬の大三角形、オリオンなど星座群の説明を受けていると、どこからとも無く聞こえてくるZzz…早起きだったし、何よりこのグリーン車並の贅沢なシートでは寝るなど言う方が酷だったかもしれない。科学館を出ると、本来の目的地『長久手文化の家』へ向かった。到着すると水野フレンズ会長をはじめ、多くの文化の家フレンズスタッフの歓迎を受けた。建物の中は真ん中にヨーロッパの路地を思わせる通路があり、通路を挟んで右手に森と風の二つのホールでなる発表の場と、日常的なけいこの場となるアトリビングが左手にあるモダンな建物だった。その通路の中ほどは吹き抜けの天井が高く、通路からテラスに向かう半円形の階段は毛糸の手編みの座布団を敷いて観覧席に早変わり、片隅に喫茶コーナーがあり、おしゃれで、しかも井戸端的な親しみやすさも醸し出していた。そこで行われたガレリアコンサート、ニューセンチュリーの混声合唱団による『箱根八里』など昭和が漂う童謡の数々が30分ほど披露された。そして待ちに待った交流会。フレンズスタッフと

alaクルーズで編成された7~8人のグループが六つに分かれてテーブルに着き、初めに文化の家館長の川上さん、フレンズ会長の水野さん、事務局長の山口さん、それから澤野理事長の挨拶の後、パワーポイントによるそれぞれの活動紹介がなされた。その後テーブルのメンバーと思い思いの交流がなされた。同席した中にフレンズ機関紙部の方がいたので、記事のとり方、編集の仕方等の話になった。編集部メンバーは6人で編集会議は月1~2回2時間位と類似点もあったが、大きく違ったところは紙面の構成でフレンズは4段組の縦文字。Microsoft Wordで作成するので縦文字変換は大変だということ、でも新聞のように情報量を多く掲載できて読みやすくなっていました。文化の家では講座やイベントを開催した後はアンケートを頂き、実行委員会の反省会に諮り、みんなの総意でマニュアル化していくという方法がとられていた。マニュアルが増える分だけ地域の皆さんに親しまれる文化の家になっていくのでしょうか。挨拶で述べられた車の両輪、長久手文化の家とala文化創造センターは車の両輪のごとく切磋琢磨していければと思いました。



グループに分かれて



吹き抜けでのコンサート



# ギャラリー展示

# 土器

## 『心にひびくものたちXIII』

### “心にひびくものたち”

このシリーズは、alaのギャラリーは小さいけれど、それなら少しの品々で展示会ができる、来場者が少なければ、静かにゆっくり観ていただける、と考え、地方の館のあるべき姿を示せる場にしたいとの考えではじめました。陳列する品々は出来る限りよい作品をと努力し、よく観ていただくため、解説はつけません。資料は用意し、質問にはお答えしています。どんなことでもお聞き下さい

### シリーズ

#### 日本の土器

- ・縄文前期の東北地方出土のものから
- ・縄文中期、後期、晩期の東北・関東地方の出土品を主にしています。
- ・弥生式土器、土師器—関東や近畿地方、東海地方の出土品
- ・奈良、平安、室町時代の碗・皿・壺。

#### 出品予定品目

##### 外国の土器

- ・中国 紀元前4000年頃からの彩文土器をはじめ、壺、鉢、皿の様々な土器
- ・タイ バンチェン出土の黒陶や彩文土器
- ・朝鮮 日本の弥生式土器につながる土器
- ・エジプト 紀元前4000年頃の黒頭土器
- ・ヨルダン、シリア出土の壺、鉢
- ・イラン イスマイラバード出土の紀元前4500年頃の鉢、等
- ・アフリカ マリ、ブルキナファソ等の古い土器、現代の土器
- ・アメリカ 先住民族の壺、鉢



平成25年3月20日(水)～25日(月)

20, 23, 24日 10:00～18:00

21, 22, 25日 10:00～17:00

#### 編集後記

3月。いつも思うのですが、月日の経つのは早い。早すぎる！でも3月といえば待ちに待った春。犬を連れて散歩をしていると河原にはもうネコヤナギが咲いていて、真っ先に春を実感します。年を重ねると昔を思い出すことが多くなりますが、なかでも春にまつわる思い出が最も多いようです。春は出会いと別れの季節などといわれますが関係あるのかもしれませんが。入学、就職そして社会に出てからは人事異動。多くの人と出会い、別れてきました。そして今、多くの人に囲まれて生活しています。今年のはたしてどんな出会いがあるのかな～。桜の開花が待ちどおしい毎日です。(O)

#### 会員更新のお知らせ

新年度会員更新される方は、3月31日までに会費をお支払いいただきますようお願いいたします。



ala クルーズ事務局 TEL/FAX : 0574-61-3414

<http://www.kpac.or.jp/alacrews/>

Mail : [ala-crews@kpac.or.jp](mailto:ala-crews@kpac.or.jp)